

平成29年度 入札監視委員会議事概要

北海道防衛局、帯広防衛支局

開催日及び場所	平成29年12月20日(水) 北海道防衛局4F第1・2会議室
委員	阿座上委員長(地域経済研究所 理事長) 神谷委員(札幌医科大学 客員教授) 菊地委員(北海商科大学 名誉教授) 木下委員(公認会計士) 津田委員(弁護士) <span style="float: right;">(50音順)</span>

I 防衛省発注機関が発注する建設工事等に関する審議

審議対象期間	平成29年7月1日 ~ 平成29年9月30日	
審議対象件数	31件	
1. 入札状況について(入札参加資格の設定、指名及び落札者決定の経緯等について)		
抽出件数	総件数 5件	(審議概要)
建設工事	一般競争(政府調達協定対象)	0件
	一般競争(政府調達協定対象外)	2件
	公募型指名競争	0件
	指名競争	0件
	企画競争	0件
	随意契約	0件
建設コンサルタント業務等	3件	
○委員からの意見・質問 ○それに対する回答等 (北海道防衛局、帯広防衛支局)	意見・質問	回答
	<b>【指名停止状況説明】</b> (特になし) <b>【低入札状況説明】</b> (特になし) <b>【抽出案件】</b> ○建設工事等 (政府調達協定対象外) <b>①[函館(29) 宿舍解体工事]</b> ・落札率85.23%となった理由は何か。	・低入札価格調査において事情を聴取したところ、施工場所が会社の地元であり、受注意欲が高かったこと、長年取引のある協力会社から比較的安価に労務

意見・質問	回答
<p>・工事内容は解体工事のみなのか。</p> <p><b>②[滝川（29）宿舎新設建築設計]</b></p> <p>・落札率38.02%で非常に低い理由は何か。</p> <p>・局積算と2,000万円ほどの差があるが、内訳はどのような構成になっているのか。</p> <p><b>③[襟裳外（29）給水施設新設土木基本検討]</b></p> <p>・非常に高い落札率だが、要因は何か。</p> <p>・受注者は石川県の業者であるが、他局でも実績があるのか。</p> <p>・給水の基本検討はあまり聞かないが、めずらしい業務なのか。</p>	<p>、資材の調達が可能なこと、また、会社と現場が近いことで管理費が低減できること、更には当局発注の同種工事の受注実績があることから、効率的な施工ができることなどの理由が確認できた。そのため結果的に落札率が低くなったものと考えている。</p> <p>・解体工事のみである。</p> <p>・低入札価格調査において事情を聴取したところ、過去に官公庁の同種業務の受注実績があり、効率的に業務を遂行できること、現在、手持ち業務の件数が少なく、是非受注したかったことなどの理由が確認できた。</p> <p>・内訳の構成は、直接人件費と経費からなっている。設計業務のため、材料費がかからないことから、大幅な削減が可能だということであった。</p> <p>・この業務はポータル方式であるため、事前に局から概算額を提示している。参加者は、概算額を参考に応札することから、このような高い落札率になったと思われる。</p> <p>・東北防衛局で実績がある。</p> <p>・例の少ない業務である。</p>

意見・質問	回答
<p><b>④[平成29年度矢白別演習場周辺地区牧草地改良工事]</b></p> <p>・資料の記述に牧草を安定的に生産とあるが、何のために安定的に生産する必要があるのか、どういう事業か。</p> <p>・過去5年、同じ業者が受注しているが、今回参加していない理由は何か。</p> <p>・28年度以降、今まで入札に参加していた業者で参加していない業者があるが、どうしてか。</p>	<p>・平成11年7月、沖縄県道104号越え実弾射撃訓練の分散実施について、北海道の矢白別演習場を含む本土の5演習場で実施することが日米両政府間で合意され、砲撃音の騒音対策として、北海道防衛局（防音対策課）が騒音コンター内に所在する農家と附帯する牧草地を買上げ、その土地を防衛省行政財産として帯広防衛支局施設課が引継、管理している。牧草地については、買上げ当時、地元の別海町から引き続き牧草地のままとして欲しい旨要請があり、国が管理し、そこで生産された牧草を不用物品として、農協を通じて農家に売払いするもので、良質な牧草を安定的に生産する必要があるため、8年サイクルで牧草地の改良工事を実施している。</p> <p>1回目の入札において、その業者の参加申請があったが、辞退したため入札が不調となった。業者に理由を確認したところ、他機関と契約中の工事が、変更契約となったため、監理技術者の配置や機材の手配等、施工体制が組めないと判断し、辞退したとのことだった。</p> <p>・過去の帯広防衛支局発注の同種工事の応札業者の多くは、道の振興局発注の類似工事である「草地整備工事」を受注している。支局管内の4つの振興局においては4月から6月に入札が執行され、道東の多くの農業土木の業者は、振興局の工事を既に受注しており、振興局の工事を受注出来なかった業者又は余力と受注意欲のある業者が国の工事に参加する傾向にある。</p>

	意見・質問	回答
	<p>・ 8月から10月までが適期なのか。</p> <p>・ 入札参加企業が少ない傾向にあるが、来年は、入札参加企業は増える見込はあるのか。先程の説明の振興局のように早く発注できないのか。</p> <p><b>⑤[然別（29） 廠舎整備建築設計]</b></p> <p>・ 案件②と同じ業者が落札し、低入札となっているが、理由は同じか。</p>	<p>・ 牧草地の改良工事は、春改良、秋改良があり、当局の改良工事は、春改良として、一番草刈取り後の7月くらいから改良事業に着手している。10月くらいまでには、播種しないと牧草の種が活着しないとされているため、この時期になっている。</p> <p>・ 予算の関係で振興局のように早く出来ないが、今年度の公告については、昨年より1ヶ月早く行ったが、結果的に不調となってしまった。道東の農業土木の関連工事では、振興局の発注時期と競合、更に道東地区においては、昨年度の台風被害等の災害復旧工事等の影響もあったが、来年度は、これら工事も落ち着き逡減し、今年度よりも競争参加の環境は向上するのではないかと考えている。いずれにしても早期発注に努力してまいりたい。</p> <p>・ 理由は同じである。この業者は官庁の設計業務を主体的に実施しているがなかなか仕事が取れないとのこと。背景として、市町村などは人工数を公表しているところが多く、調査基準価格を下回ると失格となる。市町村のより大きな事案へ参加する上で、比較的規模が大きい新築物件の実績が必要だったので、本件では、経費を最小限に積み上げ、経験豊かな技術者を充てて人件費を抑えるなどの企業努力により当該価格で応札することができたとのことであった。</p>
<p>委員会による意見の具申又は勧告の内容</p>	<p>・ 特になし</p>	

2. 談合疑義案件(内訳明細書の点検結果疑義)の処理状況について			
談合疑義件数		－ 件	(審議概要) ・該当案件なし
工事	談合情報	－ 件	
	点検結果疑義	－ 件	
業務	談合情報	－ 件	
	点検結果疑義	－ 件	
○委員からの意見・質問 ○それに対する回答等		意見・質問	回 答
		・特になし	
委員会による意見の具申又は勧告の内容		・特になし	
3 入札結果の事後的統計について			
審議概要		・順位傾向、落札率、応札率及び低落札について説明	
○委員からの意見・質問 ○それに対する回答等		意見・質問	回 答
		・特になし	
委員会による意見の具申又は勧告の内容		・特になし	